

接合科学研究所 女性の会(JWRI 女会)

梅田 純子

接合機構研究部門 複合化機構学分野 准教授

2020年1月17日(金)昼休みに第10回JWRI女会が、26名の女性教職員と6名の女子学生が参加して開催されました。まず、今回初めて参加した2名の自己紹介から会が始まりました。続いて、JWRI女会メンバーが講師役のプチセミナー「女性と仕事」第3回目は、地球総合工学科4年生の下築さんと下川さんが講演を行いました。今回は初めて学生が講師となり、4年間の大阪大学で得た経験を随所に笑いを取りながら、話して下さいました。

下築さんは「わたしの学生生活」と題して、まず、幼少期から阪大に入学するまでの経緯を紹介してくれました。その中で、子供の時から、ものづくりの環境に触れる機会があったことや建築家へのあこがれなどから、理系選択の経緯として語ってくれました。また、阪大の社会基盤工学を選択したことへの後悔は一度もないと話され、就職先も社会基盤を守り豊かな環境を整える仕事を選ばれたことをお話し下さいました。心から楽しみながら夢に向かって着実に歩まれていることが印象に残る講演でした。

次に下川さんからは「大学4年間の海外経験」と題し、阪大に進学した経緯や土木工学を選択した理由など、また子育て中の方に子供の立場から理系進学へのアドバイスをいただき、多くの点でハッと気づかされるお話をして下さいました。さらに、1年時から助成金を得て、毎年海外研修や留学に行った体験談や出会いから新たなきっかけや出会いへと繋がったエピソードを語ってくれました。その中で、「知らないことがたくさんあって色々知りたい」という探求心が活動のモチベーションになっていると聞き、年齢に関係なく好奇心を持ち続けることはできると改めて学びました。

ハツラツとした発表で、大阪大学で得た経験を生かし、次へのステップへ進む楽しさが心から伝わってくるプチセミナーでした。参加者からは、「接合研に来て初めて、身近な若い人から社会を動かしていこうという息吹を感じた」「2人とも充実した学生生活を過ごしたということが分かり、自信をもって土木工学を選んだと言えることにホレボレした」「数年後に改めて現状報告をしてもらいたいと思いました」と多くの感想が寄せられ、参加者は大きな刺激を受けました。

